

2018

矢切通信

第六話



←本来は秋に熟して木から落ちるが、なぜかこの木のザクロだけは、雪にも耐えて赤い色を夕日にはえさせていた。

→陽気に誘われるように人が出た。東京側の乗り場。

今日は暖かい。気象予報によると三月中旬ごろの気温だという。これからは日ごとに暖かさがますます。そんないい陽気なのに舟頭さんはさえない。

「眠くて、眠くって……」
生あくびをしながら矢切の渡しのお店のおわっていた。

「昨夜ジャンプを最期まで見ていたものだから寝不足なんだよ」

昨夜はピョンチャンオリンピックのジャンプ競技が行われた。日本人が金メダルを取るかと思われていたが、ダメだった。

「ぼくはスケートの三〇〇〇メートルを見ていたんだけどダメだった。このぶんじゃ金メダルなしかもねえ」

そんな心配をする私に舟頭さんは、「日本人はジャンプのノーマルヒルは得意じゃないから、ラージヒルは得意だけどね。しかたないさ。スケートも三〇〇〇はダメだけど一五〇〇が残ってるから、こっちは期待できるよ」

舟頭さんはずいぶん詳しい。だから深夜にもかかわらず見るのだろう。

今週のクマ

→11日、クマはポカポカ陽気に誘われて昼寝を楽しむ。



→矢切に住んで20年近くになるが、これまでに二度ほどしか見たことがないミノムシ。一生をミノの中で過ごすという。不思議な生き物だ。



「それにしても遅い時間にやるねえ。開会式だって夜だし、あんなものは昼間やればいいんだよ」

といい、なかばあきらめながら

「ヨーロッパは昼間だし、アメリカは朝なんだから、どうしてもやるほうは夜にしないとテレビ中継しても視聴率がとれない、つまりそのぶんだけ放映権料が取れないからだそうだよ」

舟頭さんのいわんとするところは理解できなくはないが、私だったらそんなオリンピックなら開催しない。

たとえば、二〇二〇年に東京でオリンピックを開くことが決まっているが、招致した人間は実際に出場するアスリートたちのことを考えたことがあるのだろうか。気温が四〇度近くになる真夏に開催するオリンピックは、いったい誰のためのものか。

たとえばマラソン。「できるだけ外出は控えましょう」などと天気予報がでるような日に、マラソン選手たちのことを考えたことがあるのだろうか。沿道に出て応援する人たちのことを考えたことがあるのだろうか。招致委員会の人たちの常識を疑いたくなる。